



# 第4回

## 温暖化をくい止めたい

### 考え方

**問一** 「家庭の家電製品の増え方」について、年代ごとに示した折れ線グラフを読み取りましょう。

折れ線グラフのたてのじくは、割合を表す「%（パーセント）」という単位で示されています。パーセントで表した割合のことを「百分率」といいます。これは、もとにする量を100としたときの割合の表し方です。



(1) まず、(X)・(Y) をふくむ一文を確認します。

原因は、パソコン、エアコン、テレビ、ビデオデッキなど、エネルギーを食う電化製品が増えたため、(X)や(Y)は一家に2台以上ある計算だ。(6〜9行目)

ここから、(X)・(Y)には、一家に2台以上ある電化製品が入ることがわかります。次に、グラフを見てみましょう。グラフの横のじくは「年代」、

一枚あたりのカロリーが低くても、安心してたくさん食べてしまったら、高カロリーのピザを一枚食べる以上のカロリーをとってしまうことになりですね。筆者はこの話を例にあげて、何を説明したかったのでしょうか。次の部分を見てみましょう。

温暖化問題も同じだ。高いお金をかけて省エネ製品を開発しても、見こみどおりにCO<sub>2</sub>が減るとは限らない。(20〜21行目)

「ダイエット・ピザ」の話と温暖化問題には共通点があるのですね。筆者は、省エネ製品を開発しても、「省エネ製品だから」と安心してたくさん使ってしまう、結果としてCO<sub>2</sub>の排出量が増えてしまうこともあるということを言いたかったのです。そして、そうした結果を防ぐために、次のように考えています。

その技術を目的どおりに使える仕組みになっていないと、せっかくの技術が生かされないのだ。新技術を開発することも大切だけれど、これからはその技術がもっとうまく使いこなされるような仕組みをつくらないといけない。(21〜25行目)

これらの筆者の考えにあてはまる選択肢はイとウですから、この二つが答えです。

開発にかかるお金についての話題が中心ではありませんから、アはあてはまりません。筆者は「新技術を開発することも大切」と述べているので、エもあてはまりませんね。

### 問三

②の直前の一文、「こうした取り組みは、もう始まっている」の「こうした取り組み」は、「CO<sub>2</sub>の『見える化』」を指します。「こうした」は指示語ですから、これより前の部分から、

たてのじくは、家庭の家電製品の「世帯あたりの保有率」を表しています。この場合、100%であれば、「一世帯に1台」保有しているということになります。製品ごとに見ていくと、テレビとエアコンの保有率が200%をこえており、一家に2台以上あることが読み取れます。したがって、(X)・(Y)には、「テレビ」・「エアコン」が入ります。

(2) パソコンの保有率を示した線を見ていきましょう。パソコンは1985〜1990年の間に登場し、1990年を過ぎたあたりから、少しずつ増え始めています。1995年以降は急激な右上がりのカーブをえがき、どんどん保有率をのばしていることがわかりますね。2005年を過ぎると、保有率は100%をこえました。

つまり、2000〜2005年の間に、パソコンを持つ家庭が急速に増え、その後、一世帯に1台以上保有するようになっていくことを表しています。グラフから読み取れるこれらのことを、自分なりにまとめていければ正解です。

### ポイント

資料を読み取る問題では、何についてのグラフなのか、数字は何を表しているのかを最初に確認しましょう。

### 問二

まず、「ダイエット・ピザ」という話の内容をおさえます。ある会社が、低カロリーのピザを開発したとする。でも、買った人は「カロリーが低いから」と安心してたくさん食べてしまい、むしろ太ってしまうかもしれない。(16〜19行目)

「CO<sub>2</sub>の『見える化』」が説明されている部分をさがしましょう。直前の段落を見てみます。

このように、ぼくたちがどれだけCO<sub>2</sub>を出したかがぱっと見てわかるようになれば、省エネのしがいもあるし、ダイエット・ピザのような使いすぎを防げるだろう。家電製品を買いかえるときには、『いまよりもっと省エネのものを』と考えるようになるだろう。(41〜45行目)

傍線部分からわかるように、目に見えないCO<sub>2</sub>をどれだけ排出したか、目で見てすぐにわかるようにすることを「CO<sub>2</sub>の『見える化』」と言っているのです。あてはまるのはアですね。

イ この文章には、「インターネットなどを使って……伝えていく」という記述はありませんから、これはちがいます。

ウ これが「見える化」のではなく、「見える化」によって、わたしたち自身がより省エネのものを選ぶようになるだろうと筆者は考えていますね。したがって、ウもちがいます。

エ 「排出した量がすぐにわかるようなCO<sub>2</sub>を開発すること」ではなく、「CO<sub>2</sub>の排出量が一目でわかるような仕組みを作ること」が「見える化」なのです。したがって、エもちがいます。

確かに、CO<sub>2</sub>の排出量はつきりわかるようになれば、「もっと省エネしなきゃ」という気持ちが生まれるかもしれないね。



**問四** ここで問われているのは、「CO<sub>2</sub>を減らすためにI-Tを用いてできる仕組み」です。——③の直前に「このように」とあることから、これまで述べてきたことの中に、——③の具体的な内容がふくまれていることがわかります。

直前の段落を確認すると、「たとえば」で始まっていることからわかるように、これらは「CO<sub>2</sub>を減らすためにI-Tを用いてできる仕組み」の具体例です。さらに前の段落を見てみましょう。

**それ**ができるのが、I-Tだ。I-Tの特長である人間の頭脳に近い能力を生かすことで、それが可能になる。I-Tには、人間がその方法を指図してあげれば……自分で必要な情報を集めて必要な動作を実行する能力があるのだ。(56〜60行目)

ここでは、その「仕組み」について、I-Tがどのように可能にするのかを説明しています。I-Tには、人間がその方法を指図すれば、自分で必要な動作を実行する能力があるのです。**冒頭**の**それ**が、その「仕組み」を指していますから、直前に「仕組み」について述べられているはずですね。

そこで、人間がやらなくても、電化製品自身がエコな行動を取る仕組みが必要だとぼくは思っている。(54〜55行目)

傍線部分が答えです。省エネには、「電気を消して回ったり、エアコンや冷蔵庫の温度設定を変えたりといった『人の行動』が必要」(49〜50行目)ですが、だんだんめんどうになったり、あきたりしてしまいます。ですから、I-Tによって、電化製品自身にエコな行動を取らせる仕組みが必要だと、筆者は考えているのですね。

# 自由作文

## 考え方

**問一** 電気を消して回ったり、エアコンや冷蔵庫の温度設定を変えたりといったことは、I-Tを用いた仕組みではなく、「人の行動」ですね。問題文では、「最初のうちはものめずらしさでいっしょうけんめい消して回っても、なれてくるとだんだんめんどうになったり、あきたりするかもしれない」(50〜53行目)と述べられています。みなさんはどうでしょうか。

意識して心がけていることだけでなく、家庭のルールとして定着していることなどでもかまいません。

わたしの家では、「お風呂は、できるだけお湯が冷めないうちに全員が入る」というルールがあるよ。わかし直すのにも、エネルギーを使うよね。



**問二** 問題文では、ほかに「人の体温や部屋の温度のむらを感じて、ムダなく運転するエアコン」(62〜63行目)という例があげられていましたね。**問一**で書いた「人の行動」だけではカバーしきれない部分について、「電化製品自身がエコな行動を取る仕組み」を考え、「こんな機能がついている電化製品があったら……」というものを書いてみましょう。すでに実現されているもの、されていないもの、どちらでもかまいません。

指示語が指す内容をいねいに追っていくことが大切だよ。また、見つけた内容を文章にあてはめ、意味がとおるかを確認しよう。



## 答え

**問一** X II テレビ

Y II エアコン (X・Yは順不同)

**(2) 例** 家庭におけるパソコンの保有率は、1990年

を過ぎたあたりからだんだん増え始め、1995年

以降は急速に増えて、2005年を過ぎると、一家

に1台をこえる保有率となった。

**問二** イ・ウ

**問三** ア

**問四** 人間がやらなくても、電化製品自身がエコな行動を取る

仕組み

**問三** **問一・問二**を書いたことで、省エネルギーに対する意識が少し変わったのではないでしょう。問題文を読んで新たに知ったことや筆者の提案に対する意見などを文章にまとめましょう。自分だけでなく、家庭で「省エネ」に取り組んでみてもよいかもしれません。

読んだ文章をきっかけに、自分で調べてみることも勉強になるね。調べたことを自分なりに文にまとめると、文章を書く練習になるよ。



## 答え

**問一**

**例** パソコンやオーディオ機器などは、長時間使わない場合、コンセントをぬくようにしている。

**問二**

**例** たまに、だれもない部屋の照明がつけっ放しになっていることがあるので、部屋に人がいないことを感知して、自動的に消えるような照明があるとよいと思う。

**問三**

**例** CO<sub>2</sub>の排出量を、「出したCO<sub>2</sub>と同じだけの量をきゅうしゅうする木の本数」の絵で表示するという筆者の考えに「なるほど」と思った。絵で表示することで、数字だけではぴんとこない「排出量」を身近なものとして感じられるだろう。また、今後、電化製品を買いかえるときには、家族で省エネ製品を選んでみたい。